



MANY

NO.439

令和2年7月9日(毎月第2・4週配信)MANY(Morality Active Network of Youth)

モラロジー青年活動ネットワーク メールマガジン

このたびの豪雨で被害に遭われた方へ心よりお見舞い申し上げます。
支援情報を Facebook にてお知らせしていきます。

MANY Facebook も好調です

MANY の Facebook が好調です。4月からは、『ニューモラル』に学ぶ、心づかいメッセージを中心に、研究所や学園の様子を発信し続けています。

おかげさまで閲覧者が毎週、増えています。Facebook を閲覧してくれた方がメルマガに登録してくれるようにもなりました。皆さまの近況や活動情報をお待ちしています。「いいね」、シェアは大歓迎です。

Facebook

麗澤中・高の日常が戻ってきました

コロナ感染者が増えてはいますが、麗澤中高は、日常に戻りつつあります。今までとは違うオンラインを活用した授業を行ったり、分散登校で密にならないような工夫をしています。毎朝、中高生の登校時には園内は、学生たちの楽しみな会話と共に、笑顔が輝いています。



徹底した感染予防対策を講じたうえで、今年も【サマーチャレンジ寮体験2020】と【ミニオープンキャンパス2020】が開催されます。どちらのプログラムも現役の麗澤高校生がお手伝いします。楽しく麗澤について知っていただける機会ですので、お知り合いの方を、ぜひご紹介ください。

詳細は、学校のHPでご確認ください。(<https://www.hs.reitaku.jp/>)

令和専攻塾 開塾記念WEB特別講演会のご案内！

9月12日(土)、モラロジー研究所の人材養成塾「令和専攻塾」がいよいよスタートします！今回、開塾式とともに、塾長 櫻井よしこ氏によるWEB特別講演会を開催します。(オンデマンド配信です)

令和専攻塾 開塾記念 WEB特別講演会
21世紀の国難を乗り越える
～ 令和日本のあるべき姿～
講師 令和専攻塾 塾長 モラロジー研究所 顧問 櫻井よしこ氏
視聴期間 9月13日(日)13:00～14日(月)12:00 までオンライン配信
視聴料 1,000円(税込) 主催:モラロジー研究所

新型コロナウイルスにかかわる問題から、憲法改正、安全保障など、日本を取り巻く課題、国難にどう立ち向かっていくべきかをお話いただきます。

この講演会は、全国どなたでも視聴できます。ぜひこの機会に、日本の課題を考える時間としてご視聴ください。

演 題:「21世紀の国難を乗り越える～令和日本のあるべき姿～」

視聴期間:9月13日(日)13時～14日(月)12時まで

視 聴 料:1,000円(税込)

申 込 先:研究所HP(<https://www.moralogy.jp/>)

奉祝曲の第3楽章「Journey to Harmony」 新曲CD「カイト」にカップリング

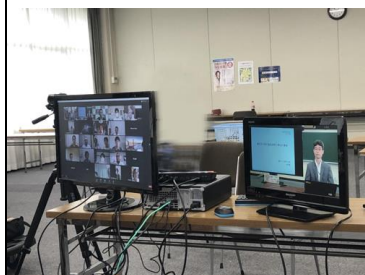
奉祝曲の第3楽章「Journey to Harmony」が7月29日に発売される嵐の新曲CD「カイト」(通常盤)にカップリング曲(レコードでいえばB面)として入ることが決定しました！情報が解禁されまし

たので、ツイッターなどでも話題になっています。

松本潤さんは通常盤に関して『カイト』に加え、カップリング計3曲が入っています。そのうちの1曲が、昨年11月に天皇陛下御即位をお祝いする国民祭典において、奉祝曲として披露させていただいた『Journey to Harmony』を収録しています。チェックしてください」と、奉祝曲のことを紹介しています。

東海ブロックまこと塾 ウェビナー(WEBセミナー)開催！

7月5日(日)、東海ブロックまこと塾をウェビナーで開催しました。講師は、廣池千九郎記念館の矢野篤事務長で、「廣池千九郎の皇室研究と奉仕の事跡」をテーマに講義、分科会、質疑を行いました。まこと塾は、東海ブロックの青壮年(30歳～60歳)を中心に年数回開催しています。



今回、このコロナ禍により、ウェビナーに切り替え、無料にして開催。ZOOM会議室を利用して、講演を視聴する形をとりました。矢野講師は、本部・生涯学習センターにて資料をモニターに写しながら講演。それをカメラで撮影した映像を配信しました。

詳細は、現地より開催レポートが届いてからになりますが、講義会場となった生涯学習センターの様子を写真で紹介します。撮影の裏側をお見せするのはと思いながら、使用機材の雰囲気も含めて、お互い今後の活動に活かせるヒントになればと思います。

未来のために今、すべきこと ～心のよりどころとのつながりを大切にする～

『子供・若者白書』から

令和元年度版の『子供・若者白書』には、こんな内容が報告されていました。それは、日本の若者は諸外国の若者と比べて、自身を肯定的に捉えている割合が低い傾向にあるということ。そして、今の自国の政治には、関心がないとする回答が多くみられ、さらに「社会をよりよくするため、私は社会における問題の



解決に関与したい」と回答した割合は、諸外国の若者と比べて最も低いという結果でした。

何も変わらない現状や政治に失望しながらも、現状を変えていくのは自分だという自覚や社会への参画意識が低いというのが今の若者という結果です。皆さんは、この現状をどう受け止めますか？

内閣府 HP 子供・若者白書(<https://www8.cao.go.jp/youth/suisin/hakusho.html>)

『れいろう』に学ぶ「和の心」

昨年の12月号の『れいろう』にある石清水八幡宮の田中朋清(権宮司)氏の記事を紹介します。

「日本の伝統的な文化や知恵が、今まさに失われようとしています。戦後の資本主義社会の激流の中に日本が落とし込まれ、多くの人がふるさとを離れ、親を残して都会へ出ていきました。(中略)人と接しなくてもよい快適さを求めたが故に、自らを寂しいところに追い込んだのが現代人です。

その結果、神と人、自然と人、ご先祖様と自分とのつながりを失いました。国連が発表している世界幸福度ランキングで、日本は今年58位と過去最低、先進七か国中では最下位でした。幸せと思えない理由は『つながりの欠如』。快適さや幸せを求めて、自らが切ったつながりによって、幸せまでも失ってしまいました。」

しかし、田中氏は続けて「日本の伝統的な価値観を取り戻す最後のチャンスがまだあります。」としています。これが私たちの身近にある神社であり、そこに息づく和の心こそが、心豊かでなつかしい未来を後世に残すための重要なカギになると語っています。

語られない真実(つながりを消した正体)

この神社の価値を再認識するうえで知っておくべき真実があります。評論家の江崎道朗氏が『月刊正論』で紹介した内容です。

昭和20年から約7年間、日本を占領したGHQは、占領開始直後に「神道指令」を発し、学校教育では神道排除が始まりました。さらに、神社や神道の諸活動の資金を集めたり、お守りやお札を配ったりする町内会などの活動ができないよう日本政府に指示もしました。つまり、神道指令によって神社と地域社会とを分離させ、地域共同体をまとめていく力を奪ったのです。そして、神社に代わる地域共同体の中心として構想されたのが「公民館」だったのです。極めつけは、神社の社務所などを公民館としている地域に対し、社会教育法の制定して、神社と公民館の関係を徹底的に切り離しました。こんな歴史を私たちは誰も知りません。



それでも世界を救う、日本の知恵

心の拠り所としての神社を徹底的に切り離された歴史を重く受け止めつつも、悲観することなく、再度、『れいろう』から大切なことを学んでいきたいと思います。

それは、「いただきます」「ごちそうさま」という言葉であり文化です。食事を作ってくれた人、農家の方、食材そのものの命への感謝や敬う気持ちが込められた日本人の知恵の伝承は、SDGsのゴールでもある「飢餓をゼロに」という世界の問題を解決する大きなヒントになるはずとして、先述の田中氏は、最後に



「こうした伝統的な日本人の価値観を取り戻すことで、日本人は日本人を取り戻しながら世界の未来をも変えていけます。SDGsもそうですし、子孫が生きる未来のことも、ぜひ自分事として考えてみてください。大事なものは”誰かが未来を変えてくれる”ではなく、”自分事”として取り組むことです。(中略)どうか皆さんも、日本人としてすばらしい知恵を与えられていることに夢と誇りを感じながら、一緒によき未来を築いてまいりましょう。」と呼びかけられました。

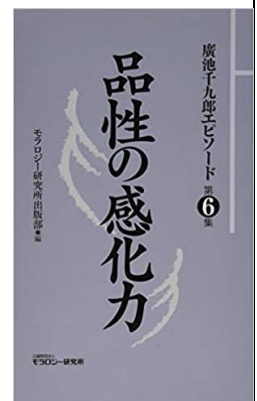
毎年8月に行われるクリーンキャンペーンは、「和の心」の息づいた神社を心の拠り所として、より綺麗にしていくことも一つではないでしょうか。

三方よしをめざし、受け継ぐ使命

最後に紹介するのは、門人の松浦香氏が昭和7年に廣池博士に随行した際のエピソードです。

それは一緒に廣池博士に随行した女性が、風邪を引いて喉を痛め、声が出ないほど体調が悪いのにもかかわらず、一生懸命料理を作ったときに、廣池博士が「ばか!」と、たいへんな勢いで叱り、「自己保存をすることもできないような人間が、人を救うことができるか」と、おっしゃったそうです。

松浦氏は、「つまり自己保存をする方法を人々に教えることが、人心救済なのでした。私は従来の考え方である、自分の命を捨てても世の中のため、人様のために働くということが至誠だと思っておりましたが、自分が滅びたのでは誰もついてきません。なるほど、本当にそうだと思います。(中略)最高道徳は万世不朽に家運を開いていくためのものです。その手本となる行いをしなければならぬところのモラロジアンですから、自分もよくなり、人もよくなり、世界全体もよくなってこそ、三方よしになるのだ、このことを、何事をするにも基礎としていかねばならんと反省しました。」と後述しています。



私たちモラロジーを学ぶ青年は、三方よしをめざして、先人・先輩から継承されてきた日本人の伝統的価値を取り戻し、次の世代へ譲り渡していく使命をもって、良き日本の知恵を伝承しつづけてまいりましょう。

＜青年育成課 森田智＞

【お知らせ】

次号は、令和2年7月23日です

基本的に毎月第2、4週配信！

活動情報、ご意見、ご感想など声をお聞かせください。

[MANY事務局へ](#)

[発行・編集]

公益財団法人モラロジー研究所 青年育成課

(<https://www.facebook.com/moralogy.many>)

住所:〒277-8654 千葉県柏市光ヶ丘 2-1-1

[TEL:04-7173-3312](tel:04-7173-3312) FAX:04-7173-3259

※掲載記事の無断での転載、再配布はお断りいたします。事務局までご一報ください。